

全国各地を巡る中で 気づかされた古河の魅力



当時はまだ三中がなかったの
中に進み、約4kmの道のりを自転
車で通学していました。ただ、運
動会の時は徒歩で行かなければ
ならず、学校に着く頃にはもう
ヘトヘトで競技どころではあり
ませんでした。
市長 落語家を目指そうと思
ったのはその頃でしょうか。
柳橋 そうですね。テレビやラ
ジオで夢中になって落語を聞いて
いました。漠然とですが、将来
は落語家になりたいと考えてい
たと思います。親も落語が好き
だったこともあり、浅草の寄席に
よく連れて行ってもらったのは
懐かしい思い出です。
市長 今は通勤・通学で電車
を利用している人も多く、新宿
まで乗り換えなしで1時間で行
けるアクセスの良さは古河の強
みですが、あの頃は東京に行く
ことは一大イベントでしたよ。

柳橋 そうでした。前日には友
達に「明日東京に行くんだぜ」と
自慢していたものです。現在、
私は浅草や新宿の公演に数多く
出演していますが、古河の自宅
から電車です。市民の皆さんに
もぜひ、足を運んでいただき、
東京の寄席の雰囲気を感じてほ
しいですね。
外から見た地元の魅力
市長 落語家になるまで苦労さ
れたのではないですか。
柳橋 大学では落語研究会に所
属し、卒業後に正式にこの道に
進みました。親に相談した時は
反対されました。それでも落
語への情熱を捨てきれず、就
職した会社を辞めて師匠に弟子
入りしました。
市長 落語の世界という封建
的なイメージがありますが、柳
橋さんの師匠も厳しい人だった
のですか。
柳橋 歴史と伝統のある世界
ですから、時代が変わってもそ
ういった一面は残っています。多
少理不尽なことでも師匠の言
うことには逆らえません。そ
れは師匠自身も通ってきた道
だからです。ただ、高座では自
分一人で勝負できるので、つ
らいことがあっても師匠より
笑ってもらおうと頑張りました。

市長 落語芸術協会の副会長も
務められ、大変な活躍ですね。
現在も公演で全国各地を回ら
れています。外から見た古河と
いうのは柳橋さんの目にどの
ように映っていますか。
柳橋 活気があるなと感じる
まちが、30・40代の若い世代
の人たちが元気で元気ですね。
自分たちのまちの良さをアピ
ールしようと生き生きしてい
る。古河市にもそんな人がた
くさんいて、年配の人もそう
いった若い芽を摘まず温かく
見守っています。以前、市内
で屋外イベントの出演依頼を
受けた際、何もなかった場所
に足場を組んで即席のステージ
を設け、そこで公演をしたこと
があります。若い世代のエネル
ギーを感じながら、貴重な経
験をさせてもらうことができました。
市長 市内でもバイタリティー
あふれる人たちが中心となっ
て、イベントの開催など地元
の魅力を発信していただき感
謝しています。
コロナ禍をきっかけとして
テレワーク等でも仕事ができる
ようになった現在、東京では
なくても都会に一番近い田舎
として古河の存在感を発揮で
ければ、たくさんの方に選
ばれるまちになるのではない
かと思っています。



笑う門には福来る 笑顔が絶えない年になることを願って



プロフィール

古河第三小学校、古河第二中学校卒業。栃木県立栃木高等学校、東京経済大学を経て一部上場企業に就職するも、落語家になりたい一心から退職し、7代目春風亭柳橋に入門。平成6年に真打ちに昇進し、平成20年に8代目春風亭柳橋を襲名。令和元年からは落語芸術協会副会長としても活躍。

多くの思い出が詰まった古河

針谷市長(以下、市長) 柳橋さんには古河大使として日頃からふるさとのPR活動をしていただきありがとうございます。子どもの頃の古河での思い出をお聞かせください。
春風亭柳橋さん(以下、柳橋) 子ども時代は楽しかった思い出しかないですね。小学生の時は野球が大好きで、休み時間はいつも先生と授業時間に食い込むまでキャッチボールをしていました。